

<ウクライナ侵攻とわたしたちの家計>

FPネットワーク神奈川会員 城戸 祐治

今年の2月24日、残念なことにロシアが隣国のウクライナに軍事侵攻を開始し、この原稿作成中にすでに1か月近く経過しています。このようなこと自体、本来あってはならないし、あってほしくない事態であることは間違いありません。

また大変残念なことに、このことは我々の家計にも大きな影響が出てきそうな心配があります。

■ エネルギーの価格の推移

	2018年	2019年	2020年	2021年2月	2022年1月	2022年2月
WTI	64.82	57.01	39.31	59.06	83.12	91.74
Natural Gas index	82.12	61.15	45.51	59.06	196.91	196.13

※WTI(West Texas Intermediate)は石油の先物価格 単位 WTI 米ドル 18年～20年まではその年の年間平均値で、21年2月以降は表示月の平均値。

Natural gas indexは天然ガスの価格を、1960年=100として指数化したもの。いずれも終値 World Bank Research& outlook より筆者作成。

世界的な石油の代表的な指標であるWTIと呼ばれる先物(=将来決まった時期に事前取引する価格を決めておくもの)の原油約159ℓ当たりの米ドルでの平均価格の推移です。2月の平均価格は91.74ドルでしたが、その後3月9日には一時約130ドルまで上昇し、3月22日現在約113ドル程度で推移しています。これまでの終値の最高値は2008年7月3日の145.29ドルでしたが、08年当時、いわゆる投機筋からの資金流入が高値の原因であったとされるのに対し、今回は上位の原油生産国であるロシアからの供給が不安定化することで、長期的な高値水準が続くものと予想されます。

NPO法人 FPネットワーク神奈川

〒220-0021 横浜市西区桜木町7-42 八洲学園横浜ビル7階

セミナー : TEL 045-620-4076 メール seminar@money.kanagawa.jp

相談 : TEL 045-620-4077 メール soudan@money.kanagawa.jp

天然ガスについても同様な推移ですが、ロシア依存度が高かった欧州が同国からの供給を絞ったことから、原油より価格の変動幅は大きくなりました。

日本は石油、天然ガスともロシアへの依存度は低いのですが、世界的に供給不安定な状況であり、高値＝儲かるので他の産油国が増産に動くことも考えにくいと思います。

■ 食糧の価格の推移

	2018年	2019年	2020年	2021年2月	2022年1月	2022年2月
食料価格指数	95.9	95.1	98.1	116.6	135.4	140.7
肉	94.9	100.0	95.5	97.8	111.5	112.0
日常用	107.3	102.8	101.8	113.1	132.6	141.1
穀物	100.8	96.8	103.1	126.1	140.6	144.8
植物油	87.8	83.2	99.4	147.5	185.9	201.7
砂糖	77.4	78.6	79.5	100.2	112.7	110.6

※いずれも国際連合食糧農業機関作成の指数。14～16年を100としたもの。 単位 なし

食料価格指数：食糧全般 肉：牛、豚、鶏 日常用：バター、チーズ、粉乳など乳製品

穀物：大麦、小麦など 植物油：菜種油など

Food and Agriculture Organization Food Price Index より筆者作成

いずれも18年の数値を大きく上回っています。特に植物油の上昇が大きいのは、ヤシの油の主要生産国のひとつであるインドネシアの輸出が滞ったこと、南米での大豆の生産見通しが悪くなり、そもそも食用のほかにも、化粧品、バイオ燃料用にも使用されるなど、用途が広いことに起因するようです。

注意が必要なのはロシアとウクライナで輸出の3割を占める小麦（ここでは穀物）の動向で、侵攻が終了したとしても直ちに生産や物流が回復するとは考えにくく、他の生産国の天候次第ではさらに上昇する可能性もあります。また、小麦は家畜の餌としても使われるので、いずれ他の食料価格にも影響があるものと思われます。

NPO法人 FPネットワーク神奈川

〒220-0021 横浜市西区桜木町7-42 八洲学園横浜ビル7階

セミナー：TEL 045-620-4076 メール seminar@money.kanagawa.jp

相談：TEL 045-620-4077 メール soudan@money.kanagawa.jp

カルチャークラブ

■ 気になる外国為替の動向

115 円台でスタートした 3 月の米ドル/円の外国為替相場ですが、23 日の今 120 円台にまで円安が進行しています。すでに米国は今年の末までに 7 回の金利引き上げを見込んでおり、米ドルにお金が集まりやすくなることになるので、当面円安傾向が続くと思われます。

1 ドルあたりの円の額が増えることから輸出には好影響を与える円安も、輸入には悪影響が出ます。エネルギーも食料も海外からの調達比率が大きいので、為替の動向も気になるところです。

■ 家計で何ができるか

すでに様々な物の値上げが発表されており、4 月にはトイレットペーパーや麺類、JR も運賃値上げを予定しています。生活必需品の値上がりは確かに痛いのですが、だからといって買いだめしても結局効果は限定的です。

個人的には自動車用のタイヤが値上げになるので、交換しておきました。耐久消費財の購入や買い替えをお考えの方は、早めに行動に移すか、計画そのものを見直すことも視野に入れておくこともよいかと思えます。

NPO 法人 FP ネットワーク 神奈川

〒220-0021 横浜市西区桜木町 7-42 八洲学園横浜ビル 7 階

セミナー : TEL 045-620-4076 メール seminar@money.kanagawa.jp

相談 : TEL 045-620-4077 メール soudan@money.kanagawa.jp